

11. 高知県立大学県民大学学生プロジェクト「立志社中」の採択と活動

令和3年度は、健援隊 clover、グローバルクラブの2団体が看護学部の学生の団体として採択された。本年度も昨年度に引き続き、国内および県内の covid-19 の感染状況に応じて、活動の計画変更を重ねながらも、学生支援課や立志社中事務局のサポートをうけ活動を行った。

次年度の課題として、感染拡大状況により現地活動が制限される期間が長期化しており、学生への活動参加の動機付けやモチベーション維持が難しくなっている。感染拡大状況に活動が影響を受けることは次年度以降も続くことが予測されるため、現地活動ができる期間に速やかに活動ができるよう事前準備にも力を入れていく必要がある。

1) 健援隊プロジェクトの活動

健援隊は、立志社中プロジェクト開始当初から設立され、今年で8年目の活動となり、先輩が築いてきた地域の方々との顔見知りの関係を今年も引き継ぎつつ、新たに生活マップの作成や保育園児への教材作成を行った。今年度は、遠隔活動と現地活動を行った。

(1)活動目標

- ・地域の方に看護の専門知識をわかりやすく伝え、知識の普及と健康文化の醸成を支援する。
- ・住民の方のセルフケア能力の向上に活かすための生活マップを作成する。
- ・小児を対象に健康に関する知識の習得をはじめとしたヘルスリテラシーの醸成を支援する。

(2)活動内容

- ・お便りの作成、発送（神池地区・柳瀬地区）
- ・健康チェックシートの作成、発送（神池地区）
- ・生活マップの作成（柳瀬地区）
- ・熱中症予防の紙芝居の作成（五台山保育園）
- ・生まれてきた過程をたどる教材作成（五台山保育園）

(3)活動の評価

看護の専門知識の普及や健康文化の醸成に向けて、住民の方々へアンケート調査を行った結果より、健康へのニーズに関する情報や、大学生活をお便りにして郵送した。住民の方からは大学生活を紹介する記事に感想を寄せていただくなど、学生と住民の方とが交流をもちながら活動できた。また、住民の方からお便りや健康チェックシートを日々の生活の中で活用しているとお話を伺えたことも、活動継続の動機づけとなった。住民の方のセルフケア能力の向上のために考案した生活マップでは、課外活動が可能となった時期に現地訪問をして、住民の方から直接、地区の歴史や特徴について得た情報をもとに生活マップの作成に取り組んだ。ヘルスリテラシーの醸成では、幼児期の子どもの健康教育のために、保育園の看護師から作成している教材について Web でご助言をいただくことを重ねて、幼児期の子どもに即した教材づくりに取り組んだ。

全体を通して、学生が地域の方と交流を図ることで、地域や対象者により関心をもち、理解を深め、その中から、自分たちにできることをみつけて発信する活動につながった。

2) グローバルクラブの活動

グローバルクラブは、令和2年度から「立志社中」として活動を開始した。令和3年度も、covid-19 感染予防対策のため、方法の変更や、看護学部実習前の不要不急の外出制限により、セミナー参加を中止せざるを得ない状況が発生したが、活動可能な範囲で異文化理解とゴミ分別の理解を深める活動を行った。

(1)活動目標

- ・高知県在住の外国人、地域住民、学生が異文化交流を通じて互いの理解を深め合い共に生活上の課題解決に取り組むことで、外国人を含む全ての人が住む場所や国籍に関わらず健康で安心した生活を送れる環境を構築する

(2)活動内容

- ・高知県立大学、高知大学共同のオンラインワークショップを開催して、ごみ分別や環境問題に関する知識を習得する
- ・リーフレットの作成・配布

(3)活動の評価

ワークショップのアンケート結果では、95%の参加者が「満足」と回答しており、実際に途上国で活動をしている人の話を聞くことや、留学生、他学部の学生との交流を通じて、多様な考えを学んだことへの満足度は高かった。また、ごみ分別の知識をゲーム形式で楽しみながら生活に必要なスキルを学ぶ機会を作り、国籍を越えて双方が文化を知り合うことにもつながった。

今年度は、リーフレットの作成、配布も予定していたが、**covid-19**の感染予防対策で対面での活動が十分に行えず、作成は見送ったため、引き続き内容等について検討する。